

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 11	公益目的事業 17
主査名	森 知也 京都大学経済研究所教授	
研究テーマ	広域交通網の構造と経済立地に関する研究	
研究の目的： <p>一国の地域間を結ぶ交通網(道路・鉄道・港湾・空港等)の構造は、各地点の相対的な交通アクセスを規定することにより、産業・人口等の経済立地パターンに影響を及ぼす。一方で、幹線や主要ハブの形成は、経済立地により発生する地域間交通需要に依存するため、経済立地が交通網の空間構造に影響を及ぼす逆の因果も存在する。本研究では、このような、交通網構造と経済立地の同時性を考慮した理論・実証分析の枠組の開発を目的とし、輸送インフラストラクチャ整備と経済立地、とりわけ、個々の産業・人口の集積パターンへの影響について、交通・都市・空間経済学、都市・土木計画学、経済地理学等の広く学際的な視点から議論する。</p>		
研究の経過 (4月～3月)： <p>2017年5,6,7,10,11月および2018年2,3各月に2名ずつ、都市経済学・国際経済学・開発経済学・産業組織論・交通工学の各方面から報告者を招き、研究会を行った(内国外からの報告者2名)。また、2017年9月15日には、「空間経済学における構造モデル分析：理論および数値解析の方法」と題して、森知也(京都大学)、高山雄貴(金沢大学)、大澤実(東北大学)による集中講義を行い、特に、経済集積の理論モデルに関する一般的理論手法の解説と数値解析の方法、および、それらを踏まえた輸送網整備効果に関する誘導系回帰分析・構造モデル分析の方法について解説・議論した。全国から30名の参加があった。</p>		
研究の成果 (自己評価含む)： <p>経済学・土木工学・都市工学・経済地理を含む学際的な研究交流を継続することができ、報告された研究の殆どがディスカッション・ペーパーとして公表、あるいは専門誌から出版されており、極めて高い研究成果を上げられたと考えている。</p>		
今後の課題： <p>9月の集中講義に見られるような、経済学と土木工学との共同企画を含む、研究会の交流を介した学際的な共同研究に発展させるケースを増やして行きたい。</p>		